千葉県中核地域生活支援センターニュースレター　第109号（令和６年１月発行）

ちばの地域福祉

「中核センターの20年」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会
会長　渋沢 茂

あけましておめでとうございます。

今年で中核地域生活支援センター(以下「中核センター)が始まって丸 20 年になります。事業が始まってすぐの、2004 年 12 月に発行した私ども広報誌「ひなた」には次のように記載しています。「集まった動機は、障害を持った方や高齢者、子どもたち及びその家族が社会の中で受ける困難は一様ではなく、簡単な解決を図れるものではないことを実感し、それを当事者個人の問題に帰するのではなく、地域や社会の問題として受け止め、みんなで考えていくことが必要だと思っていたからです。」「「ひなた」は、障害者、高齢者、子どもなど、社会的なハンディキャップを持った人やその家族が暮らしの中で感じている困難を共に克服していくための活動をしていきます。また、地域の中で起きている困難の背景と意味を考え、課題を明らかにし、当事者や家族、関係機関等と共働して誰もが当たり前に暮らすことができる地域社会を創っていきます。」

はたして 20 年前に語ったことは現在どうなっているでしょうか。

20 年前に比べて、介護保険や障害者の制度の拡充があり、困った方が使うことができる社会資源は圧倒的に増えました。こどもの分野でも市町村を中心にして資源の整備が始まっています。地域包括支援センターや障害の相談機関など、サービスを調整するための相談機関も創設されています。

断らない相談支援を行っている中で、当初は想定していなかった方とのお付き合いも始まりました。障害はないけれど人とのコミュニケーションをとることが苦手で暮らしにくい方。家族との関係に悩んでいる人たち。病気や介護等々の事情で失職して経済的に困っている方。借金や相続、離婚などの法律的な問題を抱える方。家のない人。近隣とのトラブルが絶えない方。罪を犯して帰る場所のない方。居場所のない若者。等々です。

それに伴って、当初はあまり想定していなかった人たちと共働することも増えました。何でも気軽に相談にのっていただける弁護士の皆さん。お家探しのみならず、近隣とのトラブル等にも親身に相談にのってくれる不動産屋さん。刑務所や保護観察所、検察庁などの司法関係の皆さん。

地域社会も変わってきています。以前はケース会議を行うことは一苦労していました。「何のために話し合わなければいけないのか?」のような考えの人が主流だったからです。今では一人の人のために集まって話し合いをすることが毎日のように、当たり前に行われています。

分野を超えた関係者が集まって研修をすることも以前は無かったことです。先日、近所の高校に精神障害の当事者の方々と一緒に伺い、体験談をお話させていただく機会をいただきました。このようなことも、以前には考えられなかったことです。

20 年前に私達が願っていたことは確実に前に進んでいます。

それでも、今でも私達中核センターの相談活動が暇になることはありません。どんな社会でも時代でも、隙間に落ちてしまう人は必ずいらっしゃるからです。

これからも私達はお一人お一人からの相談と真摯にお付き合いをさせていただきたいと思っています。そのことが次の一歩を強固にすすめる方策でもあると思うからです。

『香取 CCC』の地域づくり(香取圏域)

香取圏域(香取市・神崎町・多古町・東庄町)は千葉県の北東部に位置し、人口は約 10 万人。
農産業が盛んな地域です。茨城県の工業地帯や成田空港関連で働かれている方も多い地域です。

■だれでも食堂(ゆうやけ食堂・東庄町みんなの食堂)

香取 CCC では、だれでも無料でタごはんが食べられる『ゆうやけ食堂』を毎月開催しています。親子連れや仕事帰りに寄られる方、近所の高齢者まで、様々な方が訪れます。当日の調理や片づけはボランティアの方が毎回手伝ってくださり、自宅でひきこもりがちな若者や社会経験の少ない方の活動の場にもなっています。食材の確保については、地域の農家や企業に相談し、野菜や食料品のご寄付をいただいています。

また、ゆうやけ食堂に参加してくれた、圏域の保育園園長が活動に賛同してくれ「東庄町でもやりたいです！」と声をあげてくれました。東庄町での開催に向けては、その方をはじめ、町や近隣の社会福祉法人、住民のネットワークによって、準備が進められました。当日は 150 名超の参加者があり、今後も参加者の居場所となるような食堂にしたいと考えています。

■タコカフェ(多古高校校内居場所づくり事業)

今年度から千葉県立多古高等学校で、校内居場所カフェを開催させていただいています。開催前には使用する教室の掃除を、担当教員や生徒と一緒に行いました。また、生徒から名称を募集し「タコカフェ」と名付けていただきました。

タコカフェは昼休みに開催しており、生徒とお菓子やジュースを飲みながらおしゃべりしたり、オセロやジェンガ等のゲームをして過ごします。フードパントリーも設置しており、食品配布も行っています。これまで好評だったのは、ピアサポーターの方が講師をしてくれた「シュシュづくり」や、高校近くの靴屋さんが革靴の廃材を再利用した「レザークラフト」です。

元教員の方がボランティアに来てくださり、教え子だった生徒さんと、久々に嬉しい再会もありました。これからも「タコカフェ」らしい居心地の良さを、学校・地域と一緒に創っていきたいです。

■きずなバンク

地域には緊急的に居所を無くした方など、当座の日用品が必要となる方がいます。そのような方が居ることを、香取の保護司会や更生保護女性会に相談しました。その後、会員に呼びかけてくださり、新品の歯ブラシやせっけん、タオル等の日用品を集め、寄付してくださいました。その他にも多くの物品寄付をご提案いただきましたが、香取 CCC の保管場所が限られている事を打ち明けたところ、「必要な時に声をかけてくれれば持って行きますよ」と快諾いただきました。

地域のみなさまの御厚意が回りまわって、必要な方へと届くこのシステムを、香取 CCC では、『きずなバンク』と命名し有り難く活用させていただいています。

『ふらっと船橋』の地域づくり(船橋圏域)

船橋市場の中にある『市場カフェ』って？

2016年12月に船橋市場の情報発信及び地域人材の交流拠点としてオープンしました。カフェに立つスタッフは主婦、大学生など日によりさまざま。地域の人が思い思いに過ごせるカフェでありながら、時には「ふなばし大学」(まちゼミ)の会場や、交流会場になったりと、いろんな顔を持っているカフェです。

市場カフェ外観

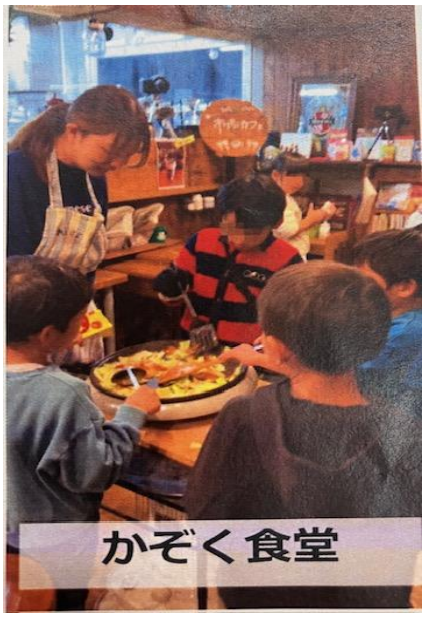
その一端として、見上さんは2年前より「ターコイズカフェ」不登校の子をもつ親御さんからの相談を受けたり、親子の思いを話せる場、情報交換として市場カフェが開催していない日にご対応されています。(←お話をお聞きした見上さんです)

『いちばごはん』:ごみひろい×子ども食堂として、地域の「米推し母さんの会」の方々が調理を担当し、お米を食べてほしいという思いから活動をされており、市立船橋高校のクッキング同好会と調理、また部活動の生徒や大学生たちがボランティアとして子どもたちと一緒にごみ拾いをしています。ごみ拾いをしたら「いいじゃんチケット」がもらえて、ご飯と交換ができるのも楽しみ。

『かぞく食堂』:かぞく食堂は、子どもたちと学生が放課後に一緒に料理を作り、子どもの居場所づくり・食の大切さ・地域との繋がり、子育て中のママは子どもたちに手伝ってもらうのは大変・・・そんな声に大学生が応える企画になります。

『しゅくだいカフェ』:学習支援×子ども食堂として、近所の小学生たちが集まれる場になっています。宿題やドリルなど、好きな「学び」を持ち寄って高校生や大学生のお兄さん・お姉さんたちに分からない部分を教えてもらい、宿題後はみんなでおやつ作りなど楽しい時間となっています。

船橋市場という場所で、一つのカフェがいろんな顔を持ち、住民や学生を巻き込んでの活動は「地域づくり」であり、活性化につながっています。お話の中で地域を知る事で課題を知る。「あったらいいな」と思う事を実験する場。そこから何が出来るだろう、とまだまだ地域に眠っている力や、若い世代がどんどん関われる場所を作っておく事が大事であると考え取り組んでいます。



市場カフェのマスターである株式会社myふなばし・株式会社フィット代表取締役の山崎氏は「地域が持つあたり前の価値」「地域創生」「地域活性化」を目的として様々な取り組みをされています。地方や田舎を含め、それぞれの地域が特色を出し、自分たちの町の価値を磨く事が欠かせないと。地域に住む人とコミュニティ、歴史や文化もそれにあたります。人口が少ない地域においても暮らす人の営みがあり、多い地域では利便性もあります。その地域がもつ価値を見直し、磨き、地域の宝を外に向けて発信していく事に尽力されています。

●お問合せ:「株式会社myふなばし」「株式会社フィット」内市場カフェ
船橋市市場1-8-1 船橋地方卸売市場関連商業組合棟０番通路１階　☎:047-421-1777

分野横断鉄道［司法］

教育　医療　雇用

国際　消費　住居　司法

公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートは、「高齢者、障害者等が自らの意思に基づき安心して日常生活を送ることができるように支援し、もって高齢者、障害者等の権利の擁護及び福祉の増進に寄与すること」を目的に設立された司法書士の団体です。

リーガルサポート千葉県支部（リーガルちば）は、県内７８７名の司法書士のうち約４割の３１５名が入会し、成年後見人等に就任したり、裁判所提出書類の作成などのほか、第二期成年後見制度利用促進基本計画に定められた権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりの一翼を担うため中核機関や県内各自治体に各種委員を推薦したりしています。

また、リーガルサポートの事業目的に未成年後見に関する事業が追加されたため、令和６年度からは未成年後見の分野にも取り組んでいくこととなりました。

未成年後見に関してはゼロからのスタートとなるので、今まで以上に関係機関のみなさまにご協力をお願いすることが多くなるかと思いますが、ちばの地域福祉に貢献できるよう努めますので、まだまだ未熟（伸び盛り？）なリーガルちばを引き続きよろしくお願いいたします。

公益社団法人　成年後見センター・リーガルサポート千葉県支部
広報担当副支部長　司法書士　吉留亨

司法　住居　消費　国際

雇用　医療　教育　動物

ちば・地域発　～県内ア・ラ・カルト～

第51回千葉県障害者グループホーム講座

医療的ケアがあっても地域で暮らせる？～医療的ケア対応グループホームの暮らし～

医療的ケアを必要とする方が入居できるグループホームの数は少なく、限られている現状です。
グループホームがその地域で暮らすための選択肢になるよう一緒に考えていきましょう。

＜オンライン配信期間＞　令和6年1月1日～1月31日　申し込みはQRコードまたは FAX

～内容～

講演:『医療的ケアとグループホームについて』
講師:千葉県医療的ケア児等支援センターぽらりす
　　千葉県医療的ケア児等支援センターコーディネーター　佐藤郁夫 氏
施設紹介①社会福祉法人りべるたす(千葉市)
施設紹介②合同会社NEXTグループホームメイプル(香取市)

発行元:千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会
事務局:夷隅ひなた(夷隅圏域)いすみ市大原8927−2
TEL0470-60-9123　FAX:0470-60-9124
編　集:海匝ネットワーク(海匝圏域)旭市ロ838
TEL0479-60-2578　FAX:0479-60-2579